

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 7 月 18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473300659		
法人名	医療法人 社団 明和会		
事業所名	ラ・メール大野		
所在地	広島県廿日市市丸石二丁目3-35 (電話) 0829-50-4315		
自己評価作成日	平成29年6月13日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=34
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年7月11日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ラ・メール大野は海や山の近くに位置し季節感を感じながら生活できる環境になっている。病院併設の施設で医療面の支援体制については、入居者及びご家族に安心を提供している。また、地域密着型の施設として地域のふれあいサロン等へ毎月出向き、地域との交流を深め、入居者の方が地域で継続した生活が送れるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「ラ・メール」という名称の語源である「母」「海」の由来のとおり、事業所は海岸近くに立地し、日当たりも良く、季節感を感じられる環境である。また、国道2号線からすぐ脇道に入った場所であるほか、高速道路のインターチェンジや鉄道の駅も近く、交通至便である。
建物構造は回廊式の2ユニットとなっており、全ての居室の窓は外が見え、回廊の内部にトイレや風呂が設置されているため、構造的にゆとりのある広さとなっている。
事業所は病院併設という強みを生かして医療やリハビリとの連携に力を入れており、特に口腔ケアの実践など利用者の健康面に配慮した取り組みがなされている。
また、地域とのかかわりや地域活動も積極的に行い、利用者が地域の中で安心して過ごせる環境づくりに努めている。

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念とグループホーム理念の共有を図っている。その理念に近づくために目標を持って取り組んでいる。	法人理念とともに、地域とのつながりを深めるための理念を共有し、実践している。事業所理念を作成しており、運営の中で実践するための年間目標を立て、それぞれの項目に担当職員をつけることで職員も責任を持って実践することに繋がっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域清掃、地域行事については事前準備の段階から参加している。ふれあいミニサロンにも毎月参加している。また、近隣の保育園とも月2回程度交流がある。	事業所として地域組織の一員となっており、町内会の組長を事業所が行っている。地域行事にも参画し、ふれあいサロンでの体操や、保育園児との交流など、事業所全体として地域と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域のふれあいミニサロンに入居者と参加したり、近隣中学校の職場体験実習を受け入れている。また、法人全体で地域公開講座(年1回)を開催している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月毎(第4月曜日)に運営推進会議を開催。インシデント対策や行事について意見を聞いている。	運営推進会議には、市の担当課の職員や地域包括支援センターの職員も参加しており、事業所の行事やインシデント報告などについて、活発な意見交換がなされている。運営推進会議録も写真やグラフを多用し分かりやすく、誰でも見れるように事業所の玄関に表示している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括支援センター開催の地域ケア会議に参加(3ヶ月毎)また、運営推進会議に市職員、地域包括、の参加をお願いしている。毎月、介護相談員(廿日市市職員)の受け入れも行っている。	市の担当課や地域包括支援センターによる運営推進会議の参加において意見交換を行っているほか、地域ケア会議への参加など行政の行事への協力も行っており、日頃から行政との協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のマニュアルを作成し、身体拘束について理解し、身体拘束の無いケアを行っている。玄関はタッチ式でドアホーンが鳴るようにしている。	法人全体で身体拘束予防のためのマニュアルを整備し、法人の身体拘束廃止委員会で共有された事例を参考にするなど、事業所でも身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者や自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修の参加で高齢者虐待についての理解を深めるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員は地域権利擁護事業所や成年後見制度について理解している。必要に応じてご家族などに制度の説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	文章と口頭で十分な説明を行っている。その後においても質問などがあれば、十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年2回(8、12月)において家族会を開催し、意見や要望などを頂くよう働きかけている。また、年2回アンケート調査を実施したり、意見や苦情などを記入する用紙を設け相談を受ける体制を整えている。	家族会を年2回定期的に行っているほか、アンケート調査を継続的に行い意見の推移を調べることで、事業所の目標設定や運営の参考にしている。また、家族会では家族だけで話し合う時間を設定し、事業所運営に対する忌憚のない意見をもらうなど、日々運営に反映させるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	両ユニット合同ミーティングを開催したり、必要に応じて勤務時間内に話し合いを行い反映している	事業所全体での合同ミーティングを行い、目標の達成状況やインシデントを業務改善に反映している。その結果、職員共有ファイルで職員意見を記入するようになり、外部医療機関受信時の記録ノートを作るなど、職員意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課により、職員一人ひとりを評価するシステムを導入している。また、管理者や主任とで職員と個別に話し合う機会を設け、課題解決に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員希望により外部研修を受講しやすいように、費用などは法人教育委員会をサポートできる体制がある。また、法人内でも定期的に研修が開催されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	毎年、福祉施設職員相互研修に参加し近隣施設と交流を持ち、サービス向上に役立てている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前や入居間もない時期に利用者や家族と話をさせていただき、安心して生活が送れるように対応している。また、入居後も必要な情報は記録し、職員間で共有できるようにしている。個別の担当を決め入居者や家族との関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面接時や面会時にコミュニケーションを取りながら要望を汲み取り、要望を取り入れたアセスメントを行い、家族に報告するなど、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護保険制度のサービスについては必要に応じて説明を行っている。医療面については併設病院との連携により専門医に紹介するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	作品作り、調理、洗濯などを手伝ってもらい、共感したり支え合う関係を築くようにしている。また、入居者同士も支え合うようフォローしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や体調不良時など家族に連絡して、本人の調子などを伝え、家族の意向を聞き取り、なるべく要望に沿えるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居時に馴染みの物品を持ち込んでいただく工夫をしている。また、家族や知人の面会時に情報収集を行いケアに役立っている。	利用者が入居する際は、スムーズに馴染んでもらえるように、新たに家具を購入するのではなく、自宅で使用していた家具を持ち込むよう家族に依頼している。また、知り合いの訪問や、馴染みの理髪店に行ってもらうなど、それまで大切にしてきた関係が途切れないような支援がなされている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	トラブルなどの無い関係が構築できるように、入居者同士の席順など職員が介入し、気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後でも、家族の方からハガキが届けられたりしている。退所された家族から相談や依頼があれば可能な限り応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人ひとりの状況や意向の把握に努め、困難な場合は本人本位のケアはもちろん、家族へ思いなどを聞いて日々のケアに努めている。	利用者一人ひとりの思いや意向を把握するために、普段の生活をしっかり観察し、何が必要かを職員同士で考え、判断しており、食べ物の嗜好など何気ない発語や表情を見て、本人の好みを把握し、意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族より今までのライフスタイルを伺い、今現在、何が一番良い方法なのか検討して実践している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者の有する力を把握したり、職員が気付いた変化を記録に残して職員間で共有し対応している。また、バイタルや体重チェックを行い健康管理に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>各ユニットで6ヶ月毎にカンファレンスを行い、介護計画の作成をしている。その際に、本人と家族にカンファレンスに参加して頂き、思いや意向の確認を行い介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプランの計画の項目を、排泄記録など日々のチェック表の中に入れて、プランを職員全員が意識するようにしている。カンファレンスには家族も参加し、家族からの意見も計画に反映させている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>その日の状態やケア内容を記録している。また、独自に職員連絡ノートと受診ノートを作成し記録することで、職員間の情報共有強化を図り、ケアなどに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>家族から宿泊希望があった場合、寝具の貸し出しや食事などの提供も可能となっている。また、法人内の福祉用具販売部門を通してオムツや福祉用具の購入も可能となっている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域サロンへ参加したり、ボランティアの方が訪問し朗読会などを毎月開催して地域との交流を図っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族の意向に沿った医療機関での受診、往診が出来るように配慮している。また、必要な情報は提供し協力体制を取っている。</p>	<p>母体法人の運営する医療法人のほか、利用者や家族の希望する医療機関でも家族の対応で受診できるようにしているほか、受診をした場合はノートに記録し状況を把握している。また、歯科の訪問診療も受けており、利用者が適切な医療を受けられるような支援がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	併設病院の看護師と連携し適切な医療が受けられるよう努めている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院中は3ヶ月居室のキープができる旨を家族に伝え、その期間内に入院先の相談員と連携を図り、状況の把握や今後の方向性などについて話し合いを行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	入所時に家族に対して、急変時や重症化した場合と終末期にの在り方(延命治療など)についての意向を確認し方針を決めている。	重度化や終末期における対応は、併設の医療機関によって原則対応がなされている。病院と連携を取りながらある程度の医療的な対応を行いつつ、法人全体として対応していることを家族にも説明している。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	夜間の緊急対応、急変時、事故発生時のマニュアルを作成し職員が共有している。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	家族を交えて避難訓練を開催している。また、市が掲示している資料を基に災害マニュアルを作成し職員に周知を図っている。	家族を交えた避難訓練のほか、詳細な防災マップや避難計画を示した資料を作成し職員に周知がなされている。また、災害時の避難方法についても、2階に避難するなど事業所としての対応方針が明確に示されている。	災害時には地域との協力関係が欠かせないことから、災害時お互いに協力し合える体制づくりについて、今後地域と話し合いを継続することにより、より緊密な地域との関係性が構築されることが期待される。

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人ひとりの性格を理解し、その方のペースに合わせた対応を心掛けている。院内認定資格の接遇マスターから指導を受けて日々接遇改善に取り組んでいる。	法人の接遇マスターから指導を受けており、居室の扉を意識して閉める、声掛け、誘導の仕方を工夫するなど、利用者一人ひとりのペースに合わせた対応を心掛けている。また、トイレや風呂場も構造的に視線が直に入らないようになっており、プライバシー確保につながっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員間で情報共有を行い、入居者の残存機能をしっかり把握して、日々の生活で出来ることや得意なことを取り組んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の意思や日々の体調に配慮し、個々のペースに合わせた対応を取っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替え、化粧などその日の気分で本人の意思を大切にケアを心掛けている。外部より散髪業者が月2回訪問しており、希望に応じて、パーマ、カラーも可能となっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	誕生日には、その方の嗜好食を提供している。夏場の熱い時期を避けて、刺身の提供もしている。野菜の皮むき、お盆拭き、食器洗いなど、入居者の体調や気分に合わせて準備や片付けの手伝いをしてもらっている。	事業所で食事を3食とも作っており、買い物も自前で行い、近隣の商店から購入している。野菜の皮むきや食器洗いなど、利用者の状態に合わせて手伝ってもらえるなど、食事を楽しむことのできる支援がなされている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>検温表に食事量、水分量、体重などを記載し偏りがないか確認している。必要に応じて、併設病院に指示を仰いで栄養補助食品などを取り入れている。また、食事に偏りがある方は、家族へ相談し要望を取り入れている。</p>	/	
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>院内認定資格の口腔ケアマスターが4名おり、日々の口腔ケアに取り組んでいる。必要に応じて併設病院の歯科衛生士に指導してもらうなどの取り組みをしている。</p>	/	
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄を記録し職員間で確認を取っている。また、日中は全員トイレへ誘導し排泄を促している。</p>	<p>適切な排泄を促す「排泄ケア体操」を実践し、トイレ誘導も工夫しながら排泄の自立に向けた取り組みが行われている。その結果、オムツを使用する利用者はなく、全員紙パンツやパットの使用のみである。また、排泄の自立に向けた研修も継続している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排泄の記録を基に排泄パターンを把握し水分補給や乳製品の摂取を勧める、適度な運動を行い腸の動きなどを良くして便秘改善に取り組んでいる。</p>	/	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>本人の意思を尊重し入浴を行っている。基本は2日に1回の入浴である。入居者の希望があれば同性の介助者が入浴介助を行う。</p>	<p>利用者は2日に1回は入浴しており、浴槽や浴室は家庭的でありながら広さも十分であり、脱衣場の入り口はリビングから離れたところにあり、一人ひとり誘導することで利用者は落ち着いて入浴できる。また、希望があれば同性の介助も実施しており、個々に応じた入浴の支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>入居者一人ひとりの状況に応じて、運動量を増やすなど安眠を促すような支援を行っている。また、体調に合わせて適度な休憩が取れるようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>医師の指示のもと、入居者一人ひとりの薬を把握するため、服薬表を作成し、服薬時などに確認している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>洗濯物を干してもらったり、野菜の皮むき、お盆拭き散歩などその人に合った役割をもって生活していただけるよう支援をしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>地域サロン、ドライブ行事、買い物、散歩など本人の希望を聞いて出かけている。</p>	<p>すぐ近くに海岸があり、閑静な住宅街であるため散歩に出かけている。また、季節に応じて花を見に行くなど行楽地やドライブに行くなど、利用者が楽しんで外出できるような支援がなされている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>入居者の能力に応じた支援を行っている。ホームで預かる場合は家族に預かり書を発行し管理している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	プライバシーに配慮して手紙や電話が利用できるようにしている。携帯電話を利用する入居者もいる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間の壁などには入居者と職員が共同で作成した季節のものを飾っている。また、エントランスには写真を飾り、入居者が居心地よく過ごせるように照明の色をオレンジにしている。	玄関や廊下には事業所の活動や外出時の写真が飾られているほか、リビングの椅子は高さ調節のできるものを使用し、テーブルの高さも姿勢よく座れるようなものを採用したり、照明も暖かい色を取り入れ、風通しも良いなど、居心地よく過ごせるような配慮、工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間に畳のスペースやソファを設置して自由に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際は、本人の使い慣れた私物を持ち込んで頂くように働きかけ、居心地よく過ごせるようにしている。	利用者が使い慣れた家具を置いているほか、自動水栓の洗面台を居室に設置し、清潔に保てるようにしている。さらに、本人の好みに応じた飾りつけや、リハビリスタッフと連携し、本人の安全な動線を確認するための家具の配置など、本人が居心地よく過ごせるような工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	低めの流し台、要所への手すりを設置している。本人が出来る事は見守りながらやって頂けるようにしている。		

V アウトカム項目(1ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム ラ・メール大野

作成日 平成29年8月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域の方を交えた防災訓練が出来ていない	災害時に地域の方の協力が得れる関係づくりを構築する	運営推進会議、行事などで地域の方と話し合いホーム内の防災訓練に参加して頂く機会を設ける	6か月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。